



主從心得草

下

9
3457
2





一箇子張ちもて。摩訶般若波羅密多と。教と  
おぼしめし。もれは。行色たる。手。實。猪。多。を。射。如く  
引。如く。散く。よう。の。ま。の。疾。殺。ケ。而。殺。り。て。さ。く。も  
出。ぎ。べ。例。を。依。て。死。生。を。あ。り。ら。る。人。く。又。身。を。殺。す  
の。せ。り。端。り。し。と。あり。另。難。と。除。く。と。い。ふ。お。り。が。此  
心。經。も。用。ひ。中。か。あ。る。か。く。の。如。く。と。い。ひ。穢。子。另。難。に  
よ。り。て。昔。ひ。と。あ。り。玉。の。半。難。ひ。あ。る。條。あり。其。れ。其  
用。ひ。秘。づ。つ。ふ。及。ま。り。の。如。く。あ。れ。接。接。戒。と。あ。る。如  
ゆ。く。如。く。信。び。あ。る。あ。る。條。と。い。ふ。意。心。と。あ。る。ま。に。

色。も。あ。じ。場。而。と。あ。る。如。故。く。及。理。以。て。い。ふ。所。に。せ。し  
か。す。は。な。ま。や。あ。れ。ども。是。の。意。を。あ。る。ま。の。く。信  
書。の。信。び。の。前。に。て。愛。の。世。に。い。ふ。の。場。也。と。い。ふ。  
信。び。の。い。ふ。は。是。と。同。く。と。い。ふ。を。倫。倍。と。い。ひ。  
と。い。ふ。は。吾。も。所。而。と。い。ふ。は。い。ふ。日。用。心。法。抄。情  
の。卷。の。子。里。頭。と。い。ふ。名。馬。も。氣。を。捕。ま。る。猶。に。さ。く。の  
所。と。い。ふ。せ。見。る。人。

ある。街。方。極。純。州。街。在。城。の。初。例。元。り。こ。ん。ら。ら。  
猪。多。く。せ。く。と。あ。る。を。あ。く。ま。ら。取。て。く。を。半。畜。





















史記の漢の高祖は打負て不覺の名を以て一殘念を  
お中し是相性意をより愛りし事あり。あは  
平生も其身のく人と志す所せよ

人の為あり。その沢也。むあ

河明君の作ふは百姓の奉貢威の軌上物を甚尚  
アより。色分は納る。是云賊。後子望賊は下帝なり  
にわぐ。望賊のちのあふ。下を會う上あり。おあんで  
賊をせん。諸軍略。兵務の下は。一倍をむり。  
迎國の百姓の軍收。沙免あり。とあれ。沢見むく。

天下を志海。一石河大將の如く。兵利樂民は  
わく。えん。この百姓は。是は。仙神の。道。慈悲に。えん。又。関西  
の。會。將。の。微。薙。ふ。七。び。管。束。の。仁。將。の。目。は。増。し。伊。勢。品  
は。心。存。知。の。通。り。あり。上。は。立。人。の。大。入。用。勢。を。化。を。行。く。  
勤。て。會。欲。を。去。れ。又。臣。たる。者。の。知。行。官。録。を。心。を。撰。ぶ。  
唯。た。義。と。く。げ。む。ご。前。は。勲。當。あり。と。も。これ。が。為。は  
初。め。後。は。斧。鉞。の。條。切。り。是。が。為。は。思。れ。ざ。と。い。ふ。  
田。が。半。あり。是。を。も。も。な。か。し。合。鉄。の。土。の。美。田。が。た。り。は  
學。ぶ。也。

















我に之を不より存る程も大儀ありあきことのりい  
 と極末またしくいぬが始末二事おにせぬけりい静人の  
 とちちと同一半取随分書育つて最たるや二三  
 を立技業多くありい静末を致し事ありい  
 極小結ひま其内悪交枝ありい静末く右の通り  
 手入つてい後あり静末となり中の人と甚  
 通つてい静末に立業よりい静末をいして悪交枝  
 は静終小音た静中よりい静後あり静  
 人とあり中い初めの静とてい静とてい静とてい静

我修より一重末にありい静末にありい静末  
 静終の悪交枝ありい静終の悪交枝ありい静終  
 ありい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝ありい静終  
 出せの静末ありい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝  
 心得の静終ありい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝  
 のりい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝ありい静終  
 作法ありい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝ありい静終  
 心昂くありい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝ありい静終  
 中てい静終の悪交枝ありい静終の悪交枝ありい静終



急なつとも先見く。ていふらぬ。考へられ。修へ入用  
の半。故長もれ。この愛も。ある。目も。と。ま。し。り。て。ま。ま。  
見ぬ。十丈の松の。木も。二寸の時。と。ま。ま。く。暮。ひ。得。て。午。  
の。青。を。極。を。め。り。り。五尺の人。も。一尺の時。より。修。ま。ひ。  
得。て。百。年。の。壽。を。得。る。半。を。と。ま。ま。り。  
論語三。子。の。い。ふ。く。あ。れ。は。愛。を。て。勞。ま。る。と。勿。  
ら。ん。や。と。い。ひ。り。世。に。子。と。あ。ら。ま。る。と。あ。ら。ん。我。  
候。と。せ。ず。勤。勞。を。な。す。是。と。愛。ま。る。半。の。深。  
き。又。勤。勞。を。な。す。世。に。子。と。あ。ら。ま。る。と。あ。ら。ん。と。捨。る。

少いもの。く。愚人の。ま。る。あ。ら。ん。世。に。思。の。才。一。也。是。大。意。  
人。孔子。の。御。音。を。ま。し。り。て。あ。ら。ま。る。と。あ。ら。ん。急。な。つ。も。  
な。り。水。滲。れ。も。自。在。人。と。あ。ら。ん。不。自。在。人。と。  
あ。ら。ん。上。の。半。と。合。せ。る。べ。し。  
御。音。の。御。音。又。不。自。在。の。半。と。ま。ま。り。く。ん。得。る。  
て。考。へ。る。べ。し。一。我。慢。我。心。驕。奢。を。と。ま。ま。り。あ。ら。  
大。妙。業。と。い。ひ。用。を。己。が。手。に。取。り。て。此。の。形。を。  
か。り。の。秘。傳。と。い。ひ。と。ま。ま。り。不。自。在。の。道。理。を。ま。  
い。づ。大。自。在。の。場。を。い。づ。日。あ。ら。ん。一。秘。密。と。  
主。従。心。得。下  
廿一





ちあるれども。来る大さある昔しあり。史のそある常  
 に心子何とあり。思れつて。昔しは好むものなり。傳人紙  
 世及理を承て。はくまひび。安んとして。あり。唐  
 あり。繪系紙。六葉が。お答を。とるも。七葉が。角屋。と  
 當も。皆世。送ひし。始つと。つり。見お。お遠。あり。又。秋  
 の。い。え。世の。能く。と。く。り。る。ぐ。あり。と。る。は。あ。ひ。た。れ。  
 管。所。と。り。た。だ。さ。む。し。ひ。つ。り。酒。の。夜。風。の。夜。あ。あ。  
 あり。た。れ。お。し。ん。と。骨。し。大。酒。美。食。の。身。を。倦。し。而  
 急。脚。れ。ば。お。後。の。そ。尾。を。お。ひ。ん。お。夜。れ。て。お。の。夜。を

交家職を余承り。ある見傳。子國を。七。り。家。を。失。り。お  
 媒とあり。見誠。お。お。彩。と。有。り。て。焼。系。と。過。雷。ひ。載。く。  
 大。江。と。海。は。同。し。雲。如。一。交。若。く。幽。王。を。能。り。貴  
 地。傍。子。婿。れ。ば。玄。宗。号。を。失。り。見。皆。名。を。承。り。し。難。と  
 あり。と。志。む。り。お。依。て。く。唐。古。の。朝。に。於。て。も。能。り。ひ  
 お。げ。て。お。ぞ。の。唐。の。先。祖。の。辛。苦。より。宮。殿。樓。閣  
 を。作。り。承。知。り。田。畠。金。銀。放。宝。靴。具。を。讓。り。交。て。悠  
 々。と。子。を。お。養。ひ。奉。り。孝。行。お。し。た。り。其。れ。具。が。お。し。る。お。の  
 ぼ。し。食。料。飢。渴。の。身。と。あり。半。死。し。て。其。れ。は。三。思。唐

志しんくはも一身を精子とす。故舊多しとくは  
 一版とあり。其人おし。其時始て目とす。遺ひ遺ひ  
 たる地。令能をぬく。人きんとす。貪欲の心。其人の  
 相と志く。たす。法をす。たす。法。例。子。背。人。倫。に。う  
 智多あり。志す。人。を。謀。或。法。例。子。背。人。倫。に。う  
 志す。其。奉。白。溝。川。子。例。九。仇。死。又。い。お。上。依。く。  
 新。飛。子。行。り。る。是。お。より。兼。る。半。子。わ。げ。皆。自。身。の  
 お。た。す。と。し。し。免。情。む。登。是。さ。う。ら。く。老。の  
 志。上。の。厄。女。又。と。う。ら。く。老。の。ま。く。い。え。念。ひ。お。と

半を志す。又。富。を。は。て。貪。心。の。難。後。を。志。す。奴。友  
 あり。是。是。の。半。を。志。す。と。し。起。る。半。之。一。体。の。お。に  
 志。其。中。を。只。う。ら。く。と。善。人。あり。紙。と。衣。と。袴。と  
 お。と。わ。く。錢。を。は。く。お。より。者。の。果。の。新。坊。を。に。て  
 志。あり。て。難。後。を。より。お。い。お。し。時。く。や。む。も  
 父。子。を。早。妻。お。と。う。ら。く。も。の。半。を。志。す。と。し。お。

お。果。て。就。が。ん。と。志。す。其。時。の  
 人。よ。た。す。れ。と。志。す。と。し。お。



女房屋  
おぼろ  
おぼろ

三浦



主従心得下

廿四





侍従の色好む人同。素樂昌の人あり。ま  
 楽む人あり。色好む人見昔年多し。それ  
 後智恵の人。素の難儀する人。是を情先合能と  
 女とあつて。たは後人あり。城の人あり。  
 つらう。古は今素。道ひ安ら。色欲の二道。  
 儒仙神のあり。はも。好文の。先玉く。其内  
 欲の。あそ。も。あそ。れ。多。色。居。ら  
 道。あ。ん。古。素。名。の。名。將。子。皆。是。敗。れ。を  
 是。玉。く。是。演。礼。の。智。の。情。ま。る。所。漢。の。高。祖。也。

の。素。宗。の。邦。の。形。朝。後。侍。従。自。身。秀。吉。也。の。邦  
 お。あ。て。あ。そ。く。が。一。但。是。上。行。人。の。半。あ。れ  
 ば。色。角。の。屋。を。下。と。あ。ら。色。欲。の。二。道。は。  
 情。の。好。む。今。日。安。泰。あ。ん。半。難。ひ。あ。一。是。了。第  
 洞。書。の。あ。り。し。友。室。あ。ん。形。の。色。と。欲。の。二。道  
 お。終。て。受。し。て。心。を。知。る。情。く。で。ま。る。道。一。無  
 二。可。き。情。の。生。の。安。ん。上。あ。一。風。あ。の。も。知。ら  
 ぢ。あ。れ。ど。の。道。の。大。難。石。の。如。く。は。あ。る。一。  
 若。竹。二。の。情。の。生。人。は。指。さ。る。安。ん。の。日。也。

地獄く智者号び考く。

又河竹の流れの身。似城色里の風俗とらる。女房風

やあ。やう。一際身袖のものあり。左の。紅白袴を用

ひ。玉環出。の素面。素足。少。て。髪形。ら。衣服。と。短

で。結。ら。心。堅。く。優。美。に。して。あ。る。も。希。く。甚。しく。

あ。つ。し。と。極。め。て。身。と。骨。筋。あ。れ。ば。公。家。武。家。身。儀。凡

下。と。撰。づ。ぐ。情。を。表。す。嗜。と。裏。子。合。く。起。帥。と。我

儀。子。で。所。儀。合。儀。一。の。所。行。時。も。ら。ふ。油。取。あ。く。人

の。接。吻。と。親。ひ。具。と。信。一。貴。族。市。の。胸。中。と。の。

あ。ん。で。は。あ。る。武。士。の。心。を。知。り。け。跡。又。不。祥。の。若。草。と

補。ひ。又。思。ふ。あ。る。何。半。も。人。子。あ。る。が。又。酒。具。に。あ。る。

あ。つ。の。り。て。不。利。を。し。く。義。理。を。あ。く。分。と。た。て。口。舌

と。構。へ。こ。う。と。を。は。し。く。意。氣。比。子。身。儀。ひ。ま。せ。う。れ

是。の。文。作。り。ふ。辱。の。男。也。道。理。を。信。ず。る。意。を。羈。こ

是。後。ら。孫。子。と。あ。る。延。く。時。引。舟。た。い。こ。あ。と。接。接。を

く。ん。て。候。ま。ん。が。元。來。相。違。の。あ。い。半。夜。何。が。扱。と。あ。り

あ。り。あ。つ。の。腹。立。一。筋。を。あ。る。又。と。く。あ。る。ま。う。あ

と。り。て。三。筋。の。糸。を。引。く。あ。る。と。あ。り。小。舟。や。浮。世

津環に傳はれ候。喉嚨が口をらさる酒の換換也。此の  
 後日の終始は。いざ手をとくこと。をわく。心づくこと。  
 其仕掛い。ある。智者も勇將也。舌を巻く。口は。思ふ  
 こと。も。量る。あ。い。ち。手。候。は。違ひ。を。ぬ。金。銀。と。多  
 く。蓄。し。身。と。い。は。ば。い。は。く。あ。る。半。生。心。の。業。あ。る。處。  
 を。あ。つ。れ。方。後。と。虚。を。や。さ。く。一。當。合。は。個。合。實  
 と。か。一。加。味。一。酒。の。吞。け。を。用。ゆ。業。あ。れ。が。苗。分。り  
 茶。氣。理。と。き。て。吞。き。あ。れ。ど。の。茶。毒。折。り。て。心。氣。を  
 と。く。金。銀。と。積。し。必。帶。は。や。せ。が。つ。て。就。の。傳。り。の。土  
 着。と。墮。ち。家。屋。を。賣。り。他。到。一。兩。三。五。連。他。難。ひ  
 多。し。結。念。あ。る。半。之。若。山。魏。の。人。わ。ら。つ。つ。今。日。只。今  
 も。い。と。お。お。い。と。家。業。を。大。切。し。一。秋。の。こ。と。海  
 と。安。ん。ど。屋。一。是。考。り。に。き。て。福。田。の。才。を。秋  
 の。心。と。安。ん。さ。る。屋。一。是。人。の。酒。を。わ。ら。ん。皆。我。身。の。  
 福。分。と。あ。い。と。い。

將。茶。よ。あ。せ。く。さ。る。め。あ。な。い。つ。く。煙。花。の。將。基。物。下  
 駢。の。代。表。を。え。る。に。業。屋。の。客。を。待。納。お。し。ま。さ。る。て  
 秘。史。に。あ。い。ま。り。た。通。也。一。て。飛。車。先。の。如。し。

至徳心得 下







扱はた梅うめの人の門かどに立たててうたをうめい一文いちもんづの四よ  
 合あひで命いのちをほめごとくものめ細こまひものトヤ  
 是これが親おやのむらあり昔むかしの身みありどのやあはヤカを  
 やめおらたれど世よ身みにあつて一文いちもんの錢ぜによりあひ  
 半はんどあつたや親おやより儂あつれた身体しんたいをちやくむち  
 やくあつてふんあつたや婆ばあにあつたも皆みなはおれが  
 おうげあり城しろは一変いちへんくつたれが城しろを傾かたむけまじくむ  
 ちあつとつたも今いまの中なかも思おもつて度どくくおつて端はし  
 ありサアチ客きやくの身みのくつた世よ上の茶屋ちややを三妻さんさい豊ゆよ。



女おんな市いち買か  
 流なが治ぢの身み

女おんな市いち買か  
 流なが治ぢの身み

女おんな市いち買か  
 流なが治ぢの身み

後方へ紙を添て編蓋のしりて錢葉かとおり  
名言く昔の且形今のお摩さあれくつていへ  
昔あやくなぐさく

新吉原はる町を丁目松葉屋抱く珍女え紐瀬川の  
方田舎の有種人訓染て通ひらるがふとおふ志やれ河  
おどひてあいの通う者ありといふぬをうりあり  
あは瀬川とて見えていひらるれと客たる者通う者  
少くもれくとあつていらくあれたる河とつひ感ひ  
あしとらるあど是とて一の御文といふ

河の志やれと用ひ形ちりてあつとえとさるもの。昔者  
厚く入毒の人の皆あつたといふ事あり。甚か女  
意のしひぬれをさる通ひあから免はさるあ  
通うものいあし。甚か其方の者あつた  
人のとあつと交家とあれ。果つてあしりや。あ  
屋を人殺あれぞとれ。城の通う者といふ。吉原の  
志門あつぬ人を中よ。いひらるとあし。是は瀬川の元  
形とあつ。名をよとあつ。甚か其の通例あつた。あ

瀬川の両玉はあつた。其の身はあつた。借老同穴の勢。











於て女希と買ひ人の懐をわてし。又揚代と拂ら  
 ぬを月帳にさる人あり。是ら何とてんかあれど  
 女希を人仕する抽入の斗あり其和半よりれ  
 命を捨てる。伊せぬ所の身をさうせし上客様とあり  
 うおきよ入太切にさるもの。彼れとわが縁をほし  
 喰ふよせんし。道理あり。大徳被りし。もをも。思ら  
 ぶ。此れく。而。給。行。あ。ら。わ。り。す。い。扱。を。余。分。の。を  
 一。た。き。もの。く。女。ま。人。仕。する。せ。活。大。作。の。半。に。て。は  
 あり。よ。ひ。し。の。毒。も。あ。ひ。ゆる。又。女。希。も。誠。あり。善。の

半く客を誠とせしむる人。不忠ある半もあ  
 る。又客より白人の為あり。女の為にあり  
 ば。何。所。の。誠。も。あ。ら。ず。白人の為もあ。女。の。為  
 もあ。ぬ。所。の。何。れ。の。客。も。誠。と。し。て。し。律。の。致。し。極  
 あり。又。中。の。律。あり。免。く。何。れ。の。仕。方。も。余。が  
 抽。替。し。つ。半。を。し。て。あれ。初。め。あ。ら。如。し。拂。入。る。金  
 子。も。あ。く。又。人。の。懐。中。を。あ。ら。よ。さ。る。あ。ど。官。女。あ。ら。ん  
 手。お。の。働。き。あ。く。變。り。て。何。れ。く。男。たる。もの  
 嗜。し。あ。ら。何。れ。方。が。大。き。き。さ。る。さ。ら。く。曲。梅。く。何。れ。く

三行心得

三十一





本の花が咲く。又花は人目の生死時刻のたがひなき。あ  
 侍もまた其おつらとあり。神は神愛おれは。佛も方  
 便のしむひの智謀計畧おれは。商人も執事あり。  
 客も客年のうらたが。女帝に起清摺紙のたほし  
 けり。和見むしとわがま。帰るまらうらたほし。あし  
 たるおめく。列きて後の客も肉くゆりて。家業  
 をほしむら。穢はし。女帝の客をわく。たはれ穢く  
 兔角天の穢の一字を照し。おあけの鳥のうら  
 けく人をも。及とあら。穢はし。是れは。いへ。おめ

ぶぬのおうらとあり。又女帝のうらとあり。穢はし。あ  
 うらとあり。穢はし。世にあり。人にも。うらとあり。穢はし。あ  
 る人もあり。うらとあり。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ  
 て。客も。うらとあり。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ  
 高砂の客の敵。如何し。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ  
 けり。客も。うらとあり。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ  
 客も。うらとあり。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ  
 又。客も。うらとあり。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ  
 うらとあり。穢はし。客も。うらとあり。穢はし。あ

三行心集

四



宿ありしをて梅干棟と持せたりと然る者一人ありし  
 とも上りて終りありしとありて客を去りては  
 修成之故に天道を白の御あまを交ててお返しを  
 身清さん一は安樂を多くと兼ひあり。若ありしに  
 客ありしとわれども。心合ふありて終情の一人ありし  
 客の己が為。身とて行し。修成のありしが為。うと  
 思ふ。昔累十年の昔。中々客ありて居びま  
 ありし。玉くし。世修成の云次。て面白  
 是等の人多し。情ひ。客ありて。女界の人をた

是れをてつ。人としてあり。人よ。を。情ひあり  
 中々の見たり。遠く。おのれが。御見。ありて。女界  
 と情ひ。あり。水。酒人。と。人  
 おのれ。人。と。人。有  
 お遠あり。己が。人。の。海  
 や。人。が。人。の。情ひ。あり  
 あ。女。人。の。人。の。人  
 客。人。の。人。の。人  
 客。人。の。人。の。人

三行に答

田三

けしきあり女希きありとぞもあつてさうくつて女希  
 買ひ置人多し。病をまきんさつち血脈を殺すれ生  
 碑のありと志す。初定にうまうひあつて人しつ油あま  
 らぬ。又客が酒を呑くさつてさうもあつて客と志す  
 へしつてあつてにわしとあつてさうもあつてさうもあつて  
 さうもあつてさうもあつてさうもあつてさうもあつて  
 あつて。女希きありとぞもあつてさうもあつてさうもあつて  
 抱人の難きがしつてさうもあつてさうもあつて  
 女希きは一寸の半あり。客客人さうもあつてさうもあつて  
 利根あり

尺くても。内儀のちたつて。而論魂は五内。古語  
 ぞく。命を儀のちたつて。人を儀のちたつて。酒を儀  
 したつて。酒の碑人が性わつて。女希きは。愛に至  
 して。虚をわつて。さうもあつて。さうもあつて。さうもあつて  
 ともあつて。女希きは。女希きは。女希きは。女希きは  
 のちたつて。女希きは。女希きは。女希きは。女希きは  
 さいやうもあつて。さうもあつて。さうもあつて。さうもあつて  
 手つて。女希きは。女希きは。女希きは。女希きは









先づ金銀をそひ果して其後如帝子遊子伴に其  
時鼻てわしら藤株の石拂ひ一時始て目と  
年くあひて。時をくしあひ

あひ唯。実子意トヤとあひしに

うくや鏡抄て。くひておのち

女帝のふと。も。し。一。奇。み

おくくうう。じつ素あしきと。くらあらの

横目しとる。くれあひの古

世家のくら。たまはぬ。あはるめ。と。い。う。う。に

舌をゆしたまの。や

孫がも先生古来。う。し。れ。あ。ひ

うしろう。孫織をさせる。煙草入

青のこま。し。び。も。あ。い。す。あ

世らの孫あしとさせ。た。た。こ。入。の。世。活。さ。る。毎。の。う。ら。で。

約集あし。拍。は。う。あ。げ。下。を。れ。し。う。米。あ。し。流。石。の

先生。女帝。の。情。を。し。く。あ。し。汝。等。が。心。た。ら。家。あ。ら

か。し。う。ら。あ。い。ん。で。青。の。世。し。れ。あ。い

と。あ。し。い。の。し。や

近世江都著聞集子芭蕉の句々

蛇吟やととつらつらと海に籠子の聲

いん焼師の籠子素より流る又鳥の姿も中夜

いれど心付とさつらつと蛇くややあつとあつと

西面如若落内如落母のふそつとれつとつと

は西施揚子地の如くつとつとつとつとつと

えつとつとつとつとつとつとつとつと

おお遠くつとつとつとつとつとつと

鹿角其方くの夜とあつとつとつとつと

屋一云家良家百姓何人の手代な云人にある事多

くの己が親兄弟貧窮不如意ある位で家来は

其云まると又抱くを主人は冬季の衣服とあつと

と恐おをせ。その上給合をその。家職はあつと

後く主人の名代と成て其家とお續つとつと

とあつとあつとつとつとつとつとつと

慮ある勤の時の立身加増の徳有て其家の家老番

此とあつとつとつとつとつとつとつと

おつとつとつとつとつとつとつと



徳心ありて如春の如  
く心ありて如春の如  
く心ありて如春の如

うげひあさなく奉公をせよ

いんらなまよあまの口あつらふ心ありぬ心より起る

半之人いふ者ありてあまの口あつらふ心ありぬ心より起る

而ありて危角心ありてあまの口あつらふ心ありぬ心より起る

忠孝の其心ありてあまの口あつらふ心ありぬ心より起る

詩経より始りてあまの口あつらふ心ありぬ心より起る

終りてあまの口あつらふ心ありぬ心より起る

奉公  
志し  
あまの口  
あつらふ  
心ありぬ  
心より起る



春亭画

主従心得 下

三











